

# 止別海岸防災林



オホーツク海の高潮や塩分を含んだ潮風などから、みなさまの住宅や鉄道、道路、農地など、地域の生活基盤が受ける被害を低減させることを目的とした海岸防災林を造成しています。

**北海道森林管理局  
網走南部森林管理署**

## 止別海岸林の姿



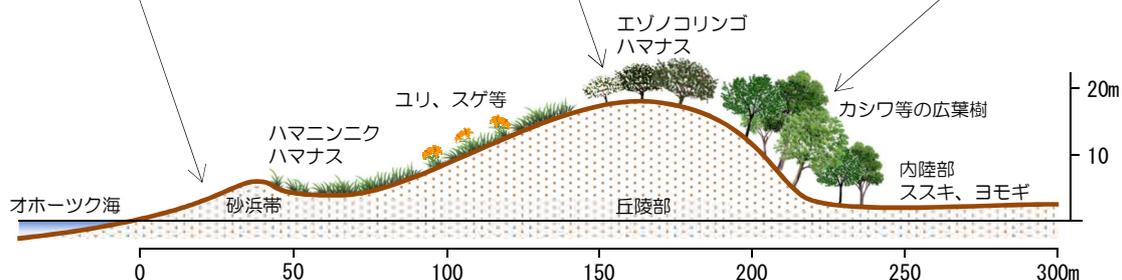
海側の砂地



中央部の丘陵



内陸部の天然林



止別治山の森付近の断面図

海側はどこにでもあのような砂浜が続き、中央部の丘陵は草本類やエゾノコリンゴやハマナス等の灌木に覆われますが、厳しい気象条件であることから、何らかの原因により少しでも生育環境のバランスが崩れると裸地化してしまいます。

内陸部は潮風の影響が比較的少ないことから、カシワ等を主体とする天然林が現れます。



## 海岸砂丘の代表的な植物



ハマナス(バラ科)



ハマフウロ(カウリウ科)



ハマエンドウ(マメ科)



テンキグサ(イネ科)



エソゼンテイカ(ユリ科)



エソスカシユリ(ユリ科)

## 海岸防災林の造成

貧栄養状態の砂地や塩分を含む強風など、厳しい自然条件の中で森林を造成するためには、樹木が生育できる環境を整えることが必要不可欠です。

苗木の植栽などの前には、風除けとなる防風垣や土壌改良のための施肥などを行っています。

### ○ 防風垣

防風垣は塩分を含む強い潮風から植栽木を保護するとともに、砂の移動を防ぎ垣内の緑化を促します。



### ○ 土壌改良

土質の悪い箇所では植栽木が十分に活着しないため、かつては客土により土壌改良を行いました。現在は固形肥料を施しています。



### ○ 植栽

主な植栽樹種は耐塩性の強いカシワや貧栄養地で優占しやすいアカエゾマツです。



## 成長する海岸防災林

防災林の造成は、昭和12（1937）年のヤチダモ植栽から第一歩を踏み出しました。厳しい気象や貧栄養な土壌など過酷な条件下で、試行錯誤を繰り返しつつ造成を進めてきており、現在もその挑戦は続いています。

### ○ 防風垣に守られ成長する植栽木（アカエゾマツ）



### ○ 成長し保安林の機能を十分に発揮している森林



### ○ 昭和12（1937）年植栽のヤチダモ 内陸部の比較的條件の良い箇所ですが、立派な森林となっています。



## 拡がる海岸防災林

### ○ 海岸防災林のあゆみ

止別の海岸林は、北海道の海岸林の多くが明治開拓期の乱伐や野火により荒廃地化した歴史と異なり、過酷な自然環境から海側は砂地、砂丘中央の丘陵部は亜寒帯の海岸特有の草本や灌木に覆われ、内陸の砂丘内側に抱かれるように、カシワを主にイタヤカエデやハルニシ等が混交した天然林がわずかに生育しているにすぎなかったようです。

防災林造成の道のりは決して順調とはいえず、造成しても気象害等により消滅してしまうこともありました。平成28（2016）年現在で71haに拡がりました。



# 海岸防災林の機能

## ○ 海岸防災林

海岸防災林は、潮害の防備、飛砂・風害の防備等の災害防止機能を有しており、農地や居住地等を災害から守るなど地域の生活環境の保全に重要な役割を果たしています。止別海岸防災林は、こうした機能を高度に発揮する森林として、飛砂防備保安林、潮害防備保安林に指定されています。また、小清水原生花園など一部は保健保安林等にも指定され、美しい景観を維持しています。

## ○ 保安林

保安林とは、水源の涵養、土砂の崩壊その他の災害の防備、生活環境の保全・形成等、特定の公益目的を達成するため、農林水産大臣又は都道府県知事によって指定される森林です。保安林では、それぞれの目的に沿った森林の機能を確保するため、立木の伐採や土地の形質の変更等が規制されます。

### 止別海岸防災林における保安林の機能

#### ○飛砂防備保安林（354林班）

砂浜などから飛んでくる砂を防ぎ、隣接する畑や住宅、道路や鉄道を守ります。

#### ○潮害防備保安林（355、356林班）

津波や高潮の勢いを弱め、住宅などへの被害を軽減します。また、海岸からの塩分を含んだ風を弱め、畑への塩害などを防ぎます。

#### ○保健保安林（354、355、356林班）

森林レクリエーション活動の場として、生活にゆとりを提供します。また、空気の浄化や騒音の緩和に役立ち、生活環境を守ります。

**止別海岸防災林は下記の現象に対して効果を発揮します。**

## ○ 高潮

台風や発達した低気圧に伴って、海岸付近で海面が異常に高くなる現象です。海面が高くなり、陸地に海水が入り込むことで、沿岸部の住宅や耕地への浸水、人が波にさらわれるなどの被害にいたる場合もあります。

## ○ 飛砂

海岸の砂が風によって移動する現象です。海岸から運ばれてきた飛砂には塩分が含まれており、金属製品やコンクリート構造物を腐食するなどの被害が発生します。また田畑に飛砂が運ばれると農作物の生育を阻害し、枯死被害にいたる場合もあります。

## ○ 潮風害

台風などの強風により、海岸部から舞い上がった波しぶきが農耕地に運ばれ、農作物に付着する現象です。表面に塩分が付着することで植物の生育を阻害し、枯死被害にいたる場合もあります。

## ○ 塩害

塩害は運ばれてきた塩分によって農作物やその他の植物、電気設備、鉄、コンクリート構造物が被害を受ける現象です。台風による高潮や地震による津波などにより海水が農地に浸入することで、植物の生育を阻害し、枯死にいたる場合もあります。

# ふれあいの場として

## ○ 治山の森

止別海岸防災林の一部である356林班（止別駅の北側）を「止別海岸治山の森」に指定しています。森内を散策しながら治山事業による防災林造成の成果をご覧いただき、その役割のご理解の醸成とともに、自然を満喫いただけるエリアとしています。



## ○ 地域住民による森林づくり

近年、環境問題への関心の高まりとともに森林に対する社会的な要請も多様なものとなっています。これまでの森林造成は荒廃地の安定化とその育成により、保安林等の機能をより高めることに主眼を置いていましたが、現在は地域住民参加による森林づくりや、ふれあいの場としての活用も図っています。

治山の森の内陸側も、ふれあいの森として平成12（2000）年以降、地域住民による森林づくりを行ってきました。



## ○ 位置等

止別海岸林は、斜里郡小清水町の浜小清水及び止別に位置し、幅100mから550m、延長15.7km、面積約340haの国有林(354、355、356林班)で、オホーツク海を臨み東西に細長く広がっています。

これらは、明治44(1911)年に「防風・飛砂防備及び魚付林」として保安林に編入され、その後幾度の変遷を経て355、356林班が「潮害防備保安林」、昭和47(1972)年に354林班も「飛砂防備保安林」として指定され、荒廃地の民家、鉄道、国道、農地等の保全に大きな役割を果たしています。



## ○ 354林班

小清水原生花園として全国的に知られています。区域の半分が網走国立公園特別保護地区に指定されていることもあり、森林造成の対象とはしていません。毎年雪解け後には、美しい花々が咲き乱れるかつての風景を回復させるための火入れを行っています。

## ○ 355林班

昭和39(1964)年から堆砂垣、静砂垣を設置してハマニンニク(テンキグサ)やイタチハギを導入し、裸地の緑化から森林づくりが始まりました。昭和40年代にポット造林をしましたが、気象害等により生育は思わしくなく、昭和60年代から客土を取り入れアカエゾマツやカシワなどを植栽し、現在までに17haを造成しています。

## ○ 356林班

昭和12(1937)年から裸地の緑化と併せて植栽を始め、一時11haまで造成しましたが、気象害等により昭和41(1966)年には7haまで減少してしまいました。ここでも昭和60年代から客土を取り入れ、現在までに54haを造成しています。



**北海道森林管理局**  
**網走南部森林管理署**

〒099-3632  
北海道斜里郡小清水町字小清水656-3  
TEL 0152-62-2211 FAX 0152-62-2213